

第40回児童生徒 読書感想文コンクール

児童生徒読書感想文コンクールに、多くの優秀な作品が寄せられました。
先月に引き続き、最優秀作品を紹介します。

■中学校1年生の部 最優秀賞

サービスとおもてなし

弟子屈中学校 藤田 佑大君



自分はおもてなしをしたことがあ
るか、と考えたこ
とはありませんで
した。しかし、考え
てみると数は少な
いと思います。本を読んでサービスとお
もてなしの違いを知ることができまし
た。サービスとは気づいてもらう前提の
行動、おもてなしは表裏のない気持ちで
見返りを求めない気配りのことです。

そこで、自分はそういう経験がないか
考えてみました。すると、サービスなら
あると思いました。例えば友達におこっ
てあげたりなどです。しかしそれは友達
に気づいてもらい喜んでもらうための
ことです。おもてなしは買物をする時
にできるだけちよつきりを出して、おつ
りを出さなくていいようにしたりして、
気づかうということになります。普段
なげなくやっていることがおもてなし
し、そのように気づかうことがおもてな
しと改めて知りました。サービスもそ
の一つだと思えます。この本でいえば、
笹の葉を金色に輝かして、皆をおどろか
せ楽しませるなどと、見返りを求めずた
だ楽しんでもらいたいという気持ちで
やる、すごいことだと思います。自分達
も誕生会でサプライズしたりなどなら

皆で楽しくできます。そういう楽しむ心
が大事だと思います。
この本を読んで、おもてなしはやさし
さだと思いました。理由は気づかうとい
うことがあるからです。

他にもこの本には人の幸せは自分の
幸せになると書いていました。自分は
そう思えないと思いました。なぜなら自
分の幸せで満足してしまつて、それでい
いと思つてしまつからです。なのでこれ
からは、他の人のことも考えていきたい
と思います。

この本を読んですごいと思つたこと
は、皆が人のために仕事をしていて、人
が喜んでくれることで、喜んでること
です。自分も他の人も喜ばれるようにな
りたいと思いました。他にもデイズニーの
キャストになりたいという夢があり、そ
の理由はゲストをもてなしたいから、人
を幸せにしたいから、といった心を持
っているからだと思います。

だが、一番すごいと思つるのはデイズニ
ーのすごさです。キャストもゲストも皆
が笑顔になるからです。魔法のように。
しかし、そこにはキャストのがんばりが
あるからだと思います。だがキャストは
楽しみながら仕事をしているので、す
いと思えます。

この本に書いてあったおもてなしの
神様は皆の中にいるものだと思います。
皆も人をもてなしたい気持ちがあるは
ず。その気持ちを大切にしていき、これ
からも生活していけば人をもてなす時
がくるはずだと思います。人をもてな

■中学校2年生の部 最優秀賞

自然の中で生きたい

弟子屈中学校 芝田 遥夏さん



私の家には、動
物がいてたくさん
の木が生い茂る。
そして周りには一
軒も見えない。で
もそれがさびしい
とか嫌だと思つたことは一度もない。私
はこの本を読んで改めてそのことを考
えることができた。

私が読んだ本は「大草原の小さな家」。
主人公ローラは動物や自然が大好きな
女の子だ。ローラたちは人口が少ない場
所を求め、大草原へと出発した。そこで
新しい生活を始めるのだ。ローラには姉
がいた。しかし、外で遊ぶのが大好きな
ローラとは違つたのでローラは一人で
外で遊んでいた。ローラは大草原の中
でも生き生きとしている。インディ
アンが落としたピースを集めてネックレ
スにしたり、馬や犬と一緒に遊ぶ。私も
こういう遊びが大好きだ。私は四つ葉
のクローバー探しをしたり、馬や牛に草
をあげ犬の散歩に行つたりして楽しん
でいる。

私の今の環境では頻りに友達の家へ
遊びに行けないし、一緒に出かけるなん
てことは滅多にない。また、私は学校の
友達の話についていけないこともある。
そのせいか、友達もテレビ番組やゲー

せばいい。だがそれは見返りを求めな
い、人のためにやることを大切にしてい
つたらいいと思います。

自分はこの本を読んで変わろうと思
いました。これからは見返りを求めず他
の人にも、なにかしたいと思います。

書名『デイズニーおもてなしの神様がし
てくれたこと』

鎌田 洋 著

(寸評)
本を読み「サービス」と「おもてなし」それぞ
れの意味の違いを知り、それを自分自身の日
常生活の行動を振り返り考察しています。そ
の中で「おもてなしは「優しさ」だと考え、デ
イズニーのキャストたちの献身的な、見返り
を求めずひたすらゲストを喜ばせようとす
るプロ意識を感じ取っています。感性豊かな
藤田君の人間性が感じられます。「無償の愛」
これからの中学校生活の中で、ぜひ周りの人
たちにプレゼントしてあげてください。



全で守られた生活に慣れてしまつてい
るのではないか。どんなに文明が発達し
たとしても人間だつて動物だ。命の危険
を回避したり、厳しい自然環境に対応で
きる能力を持ち続けなければならぬ。
私はその能力をこれからも高めていき
たい。なぜならこの先ずっと自然の残る
土地で生きていきたいからだ。そう、ロ
ーラのようにたくましく、生き生きと。

書名『大草原の小さな家』
ローラインガルス・ワイルダー 著

(寸評)
本の内容と自分の置かれている生活状況
とを対比させ、共感できるところは自分の生
活を振り返り詳しく述べています。また、そ
のことから家族のつながりや存在そのもの
についてまで発展させ、深く考えています。
決して一人よがりではなく、人間社会の中で
協調しながらも自分を大切に、家族を大切
にしたいという芝田さんの思いが強く伝わ
ってくる素晴らしい感想文です。最後に、北
海道の大地の子として大きく成長してい
くことを期待しています。

そのほかの最優秀作品についても、来月
以降順次紹介していきます。
※生徒の学年は、コンクールが行われた平成
26年度当時のものです。